

2017 年 2 月 6 日～2 月 12 日

翻訳 ゲラ 弘 美

編輯 岩 田 欣 三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

2月6日(月)

私を覚えて、これを行いなさい

聖書朗読 Iコリント 11:23~30

ですから、ひとりひとりが自分を吟味して、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい。
I コリント 11 : 28

主の食卓をいただく時は、キリストの死について考えながらいただきますが、意識を集中することが難しい人もいるのではないかと思います。私は主の食卓の前の讃美歌を歌っているときに、心の準備をしています。聖書の主の食卓に関する箇所を開きます。しかし、それでも自分の思考にじゃまされて、意識を集中できないことがあります。最後の晩餐で、弟子たちに与えられたイエス様の言葉に集中できるように神様にお願ひもしてみますが、やはり自分の生活に起こっていることをいろいろと考えてしまうのです。

私は自分自身が、そして皆が覚えていなければならないのは、キリストは様々な思いや憂いに人生をじゃまされている私たちのために死んでくださったということです。その晩、弟子たちは様々な思いをもってパンを食べに来ました。キリストはそんな弟子たちの気持ちを思いやったと思います。弟子たちの心には、恐怖や混乱や裏切りといった思いが交錯していました。そんな弟子たちのためにイエス様は、私を覚えていなさいとおっしゃいました。そして、私たちはイエス様の犠牲を覚えることによって、自分自身を、自分の愛する者のために犠牲にすることができるのです。事実、それは愛なる神様がこの世に臨在され、その広く深い愛を私たちを示されたのです。ですから、主に集中し、主を覚えて主の愛に満たされましょう。

讚美歌 第二編 179

祈り 愛する神様。毎週、週の最初の日にあなたとあなたの御子と語ることが
できることを嬉しく思います。葡萄酒とパンの重要さを私たちが覚え、それ
を頂くことによってあなたと御子を讃え続けることができますように。
イエス様の御名において。アーメン。

ベティ・S・ベンダー
テネシー州 コロンビア

2月7日 (火)

大切な足の親指

聖書朗読 ローマ 16:25~27

大ぜいいる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、ひとりひとり互いに器官なのです。 ローマ 12:5

大学生の頃、私はひと夏を校庭の芝を刈りながら過ごしました。でも、芝刈り機に慣れていなかったので、芝刈り機の回転している刃に足の親指を巻き込まれてしまいました。言うまでもなく、激痛が体中をかけ巡りました。

傷ついた親指は手厚く手当しましたが、どんなに気をつけても、親指を何かにぶつけてしまいます。そのたびに痛むのです！ 私は人生でその時ほど足の親指に注意を払ったことはありません。傷つけるその日までは、親指は靴の底についているという認識しかありませんでした。

その時から40年ほどがたち、私は説教者となりました。私は教会の「口」です。そのために多くの注目を浴びています。私は教会でも町のお店でも、出会う人に呼び止められます。しかし、教会の他の人が町のお店で買い物をしていたとしても、呼び止められることはないでしょう。その人は「地位」についていないからです。

もし身体の一部がなくなったり傷ついたりしたら、身体中がそれを感じます！私の親指は私の口よりもずっと重要だったのです。自分の経験から私はこう言えます。「弱そうに見えるからだの部分が、大きな働きをしているのです。」そしてそれは本当です！

讃美歌 537

祈り 親愛なる神様。私たちは習慣的に有名な人や重要な人に敬意を払ってしまいます。身分が低い人を私たちが見過ごしてしまう時には、どうぞ赦してください。あなたが身を低くされたことを私たちが悟り、他人と互いに真に仕え合うことができますように。

イエス様の御名のもとに。アーメン。

ペニー・F・ニコラス
テキサス州 オデッサ

2月8日 (水)

意味を曲げないで

聖書朗読 IIコリント 4:1~6

あなたは熟練した者、すなわち、真理のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じることのない働き人として、自分を神にささげるよう、努め励みなさい。

IIテモテ 2:15

最近はどこに行っても、人々が物事の意味を曲げて伝えているように思えてなりません。政治家たちは、自分の都合に合わせて事実を曲げています。ジャーナリストたちは、私たちにうわべだけの情報を提供し、本当に重要な情報は報道しません。宗教の指導者でさえ、神様のことばを自分が望む方向に曲げて伝えています。

今日の朗読箇所では、使徒パウロが「恥ずべき隠された事を捨て」、神のことばを曲げないようにと言っています。パウロは自分と自分の協力者が、真実を十分に伝えること、そして自分たちではなく、主なるイエス様について語る事を第一としています。パウロたちが語ることは、すべて主に栄光をもたらすためなのです。パウロたちは、敬けんな仕え人にすぎません。

私たちもパウロの例にならい、神様のご意思なる真実でシンプルな、人類に向けられたみことばを、その通りに語りましょう。

例え自分では理解できたと思っても、
神と愛のきずなを二重に結んでいない者が、
聖なることばを理解していると言えようか。

——聖アウグスティヌス

讃美歌 第二編 61

祈り 主よ。日々私たちがあなたのみことばを理解し、その目的と意味を実行できますように。みことばの意味を曲げることなく、まっすぐに教えることができるように助けてください。

キリストを通して祈ります。アーメン。

ジャン・ノックス
テキサス州 グランベリー

2月9日（木）

とげに傷つく！

聖書朗読 IIコリント 12：1～10

なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。 IIコリント 12：10

「肉体のとげ」とは何のことでしょうか。私にも「とげ」があるのでしょうか。とげは何のためにあるのでしょうか。肉体には二種類のとげがあります。

1. 神様によって与えられたとげ
2. 神様のおかげをもって自分自身で育てたとげ

パウロの場合を例にとると、神様によって与えられたとげは、パウロが聖なる経験を積んでいる時に得意にならないようにとの戒めです。たとえば、サタンはとげの一つです。

現代では、神様は私たち自身の選択の結果として、とげをくださり、私たちが精神的に成長できるようになさっているのでしょうか。神様が私たちを通して働かれるためには、私たちの一人ひとりが自分の弱さや無力さと向かい合わなければなりません。そのあとで、私たちは神様を受け入れる準備ができるのです。

神様と比べることのできる『啓示』（IIコリント12：7）はありません。私たちが、神様が思われる通りにしてくださいと祈るとき、この地上での最も失望するような試練でさえ、神様によって有用なものとされ、私たちは完全なものとされるのです。

神様は私たちのところを無理やり開いて服従させたりはしません。私たちがひとたび自分の弱さを認識し神様に身をゆだねれば、神様が万能の力をもって計らってくださいます。

讃美歌 291

祈り 主よ。あなたに完全に私自身をささげます。そうすれば、人生になにが起っても、あなたのご計画にそって導かれながら私は成長することができます。私にはあなたの助けが毎時間必要です。

イエス様の御名において祈ります。アーメン。

ノーマ・プリビット

カリフォルニア州 サウザンドオークス

2月10日（金）

忘れ去られた真実

聖書朗読 ガラテヤ 5：7～18

兄弟たち。あなたがたは、自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕えなさい。

ガラテヤ 5：13

クリスチャンの友だちが家族を訪ねるために、生まれ育った町へ帰りました。子どもの頃に通っていた教会の聖書クラスに出席したところ、「クリスチャンでない人たちは、どうやって私たちがクリスチャンだとわかるの？」という質問について、皆が議論しているのに興味をひかれました。

かなりの間、議論は続き、いくつか回答がでたところで、私の友人は発言しました。「えーと確かイエス様は、私たちがお互いに愛していれば、私たちがイエス様の弟子だとわかる、と言ったよね」。このシンプルな答えは、聖書クラスの皆を、ヨハネの章に返らせ、友人はヨハネ13章の35節を読みました。

ガラテヤの教会のように、シンプルな真実を忘れてしまう時があります。今日の朗読箇所を読むと、パウロが私たちを愛の大切さに引き戻してくれます。

豊かな者はいなくなり、
安らぎは消え、
希望は萎えても、
愛は私たちと共にとどまる。

—— リュー・ウォレス

讃美歌 第二編 230

祈り ああ、神様。あなたを父と呼べることに感謝します。あなたは真の父親の愛を私たちに示されました。その愛に私たちが生きることができるように助けてください。

イエス様を通して。アーメン。

ブルース・M・ヘンダーソン
ネバダ州 カーソンシティー

2月11日（土）

何か良い事を期待しながら

聖書朗読 エペソ 2：4～10

どうか、望みの神が、あなたがたを信仰によるすべての喜びと平和をもって満たし、聖霊の力によって望みにあふれさせてくださいますように。

ローマ 15：13

喜び。しばしばそれは何か特別なことが起こるのを期待しているときにやってきます。何でもいいのですが、何か嬉しい事を待ち望んでいるときは、幸せで明るい気持ちになります。多分、しばらく会っていない誰かの訪問を待っている時や、その人に会いに行く計画を立てている時がそんな気持ちでしょう。そんな時私たちはわくわくしながら多くのことを考えています。なぜ？ 喜びがそうさせるのです。

そして、キリストと一緒にいること、永遠と一緒にいたいと思うこと、そしてそれを待ち望むことは、期待に胸はずむ喜びではないでしょうか。キリストに会いに行く旅は楽しいでしょうが、訪問を終えて、家に帰らなければならない時がきます。訪問客を家に迎えて楽しい時間を過ごした後で、お客が家に帰るのと同じです。私たちはもとの普通の生活に戻ります。しかし、私たちは別れ際に、神様から救いという贈り物をいただいています。それゆえ私たちは喜ぶのです。

そして、私たちがそのことを覚えていれば、生きている間ずっと、圧倒されるような喜びが毎日続くのです。これ以上素晴らしいことはないではありませんか！

喜びは一時の幸せではなく
永遠に続くもの
たましいに、神と平和を築き
神の意思を行え

———— シャーウッド・ワート

讃美歌 518

祈り 天のお父様。キリストをありがとうございます。キリストは私たちを救おうと、そのいのちを私たちにくださいました。私たちが永遠に感謝し、敬虔となり、心に喜びをもっていられますように。そして、あなたの光が私たちを通して輝きますように。

イエス様の御名において。アーメン。

クリスティーン・アダムス
ニューメキシコ州 ホップス

2月12日（日）

キリストの中に隠れて

聖書朗読 コロサイ 3：1～4

神は聖徒たちに、この奥義が異邦人の間にあってどのように栄光に富んだものであるかを、知らせたいと思われたのです。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。
コロサイ 1：27

友人が病気になり、家の外に出ることができなくなりました。家の中で静かに養生するためです。彼女は外出したかったのですが、家で休養することが今は一番大切だと分かっていました。

パウロはキリストの内にある私たちの真の自由について書いています。それは目には見えませんが、キリストとともに私たちはそれを育てたのです。この自由があるので、私たちは様々な境遇にあって、考えることができます。新しい視点で見れば、私たちの人生に平和と休息がきます。私たちは神様や他人に自分の価値を証明するために働くのではありません。本当は、私たちはキリストの中に休んでいるのです。そしてある日、キリストの栄光の中にこの真実が明らかにされるのを見るのです。キリストの中にいられるというお約束に感謝し、それを喜んで受けましょう。

キリストの中に身を潜めていられるということはなんという恵みでしょうか！

私たちが置かれた境遇ではなく、
その境遇で出会う聖霊が
私たちの心に安らぎを与える。
———— エリザベス・T・キング

聖歌 236

祈り 主よ。今日の日に私たちがキリストの中に隠された恵みを感謝し、それを受けることができますように。
イエス様の御名において。アーメン。

シェリー・リアムス
テキサス州 ラボック